辰巳会 会員だより

菅　てるひ

寒さ厳しゆうございます。先日はご丁寧な辰巳会報たつみ第六四号お送りくださいまして誠に有難うございました。楽しく拝讀させて頂きました。昔の鈴木商店様のご経歴がご立派な商店様でした事よくわかりました。役員様お世話頂きます皆様にはご苦労様でございます。有難うございました。先づは御礼迄

今村　一之

謹賀新世紀

たつみ第六四号ご恵送いただき誠にありがとう存じました。今村冬二郎は五〇頁の長寿番付の前頭にその痕跡を残すのみのようでございますが、松下重男様、坂東みどり様など今でもお年賀状をいただいており、細い糸はつながっております。全国大会のご報告の中で、今後も辰巳会は続くとのお言葉が載せられていて、心強く思いました。益々のご発展をお祈りいたし、お礼とさせていただきます。

一月十七日

越智　福夫

「たつみ」誌をお送り下さり、ありがとうございました。父の名がのっている番付も拝見し、なつかしく思いました。御報告がおくれましたが、母榮は一昨年八月二十一日召天いたしました。九十二才でございました。

末筆ながら会の御繁栄をお祈り申し上げます。

青柳　節子

前略　「辰巳会」発会四〇周年記念号お送りいただきありがとうございました。

〝御礼を〟と思っているうちに、節分・立春とまたたく間に過ぎてしまいました。重ねてお詫びいたします。奇しくも一月十七日に届けられておりました。

年頭のご挨拶をされておられます、鈴木会長もお元気のご様子で嬉しく思いました。

今回の記事で二二頁「金子さんの思い出」の中では、愛媛県新浜市外に金子山古戦場という場所があって、氏のご先祖は、かっての土佐藩主長曽我部に殉じて討ち死にされた由。近しい方に、長曽我部を祖先にもつ方がいて、不思議に興味深いお話でした。

又、「東京ステーションホテル・二〇一号室」のスイートルームは、氏の東京での司令塔であったとのこと。一度、チョット覗いてみたいものです。

近々のニュースでの、「日商岩井」と「三菱商事」の鉄鋼部門での合併云々では、速水日銀総裁の影響は、皆無なのかなーなどと勝手に想像をしてみたり…。氏のいよいよのご活躍ぶりに、感服してみたりで。

あれこれ、楽しませていただきました。

二一世紀も、はや二月がすぎようとしておりますが、皆様のご健康と平穏な日々をお祈りしております。

敬具

二〇〇一年二月吉日

金子　貞子

いつも色々お世話様でございます。春も真中なのにこの寒さはどうしたことでしょう。只今はアメリカハナミズキがあちらこちらで美しく満開をほこって居ります。

此の度は珍しいお写真有難うございました。はじめて目にする写真でなつかしく色々の想い出が去来致します。場所は脇ノ浜の家と思います。須磨の家にはあの様な場所は記憶にありませんから……須磨へ移る直前の写真と思います。

本当に有難うございました。焼増しを企画して下さった方に感謝致します。

総会には又お目もじを楽しみに致して居ります。先はうれしく御礼のみ申し上げました。　草々

古永　栄津子

寒い日が続いておりますが、お健やかにお過しの御様子心からお喜び申し上げます。

此の度は思いもしない懐かしい「たつみ」誌をお送り下さり、本当に有難うございます。今でも何かとお心に掛けて頂き厚く御礼申し上げます。

ご本の中の一四頁に「志水寅次郎」様の名を拝見し、子供の頃家の近くに志水支配人の住宅があった事を思い出しました。

三一頁の鈴木商店小樽支店の建物は、私も「大成商事」として覚えており、よく父の処へお弁当を届けに横の入り口から入りました。大成商事が鈴木商店の系列である事は父の処へ「たつみ」誌が送られて来て始めて知り父も大きな組織の中の一員であった事に感無量です。

また、父は逢来不動産の北海道の管理をしていましたが、これもきっとその続きだったのでしょうね。

何か取り留めのない事を書いてしまいましたが、これを読ませて頂いて父の事に今再の様に想い出し、嬉しゆうございました。

どうぞお体を大切にされ、何時迄もお元気で過ごされます様、お祈り致しております。

感謝のうちに

二〇〇一年一月二六日

戸谷太通三氏への礼状より

参考（井筒氏長女、苫小牧市在）

福井　崇子

あじさいの美しい頃となりました。

先日の大会にご招待頂きまして、誠に有難うございました。鈴木様の古い歴史を伺いまして、又同窓の方々と、お目にかゝらせて頂きまして、嬉しうございました。帰りまして、父に報告致しました。あの世で、さぞよろこんで居ること、存じます。

又、その節の写真をお送り頂きまして厚く、御礼申し上げます。

鈴木会長様には、学生時代、JR塩屋駅で遠くから、お目にかゝらせて頂いて居りましておなつかしく、拝見させて頂きました。おくれましたが、御礼申し上げます。

不順の砌、御自愛の程、祈念申し上げます。　かしこ

六月十日

小原　秀吉

甦回想

私において金子直吉翁は人生高潔の恩師特に日中平和友好に奔走広汎な実業開発究極の哲人、今回NHKにてドキュメンタリー実録作品に蘇りました。師に仕えたのは実写激動の極み、昭和十、十一、十二年の書生三年の短き期間。私にして二十歳の報国に準じて戦地、戦場にて師の柔和の言魂に負う事、幾許ぞと今日に生きる感謝の日、日です。

平成十三年七月四日

明石市在住

物故者名簿

「たつみ64号」以降

御芳名	死亡年月日	享年	鈴木時代の職歴又は現職
木下　清三郎	平成12年12月2日	92才	本店・帝人㈱
請川　耿	平成13年4月8日	83才	日塩㈱